

【第一幅】



- ①お釈迦様が天竺摩訶陀國靈鷲山(てんじくまかだこくりょうじゅせん)で説法。
- ②月蓋(がつかい)長者は仏法に帰依せず、悪疫が流行し悪鬼邪神が乱入、娘の如是姫も病にかかる。
- ③お釈迦様のお告げにより、長者は阿弥陀如来に一心に如是の救済をお願いする。すると楼門上に一光三尊(阿弥陀・観音・勢至)仏が来臨。
- ④如是は平癒し、悪疫の流行も治まる。長者はぜひ三尊のお姿をとどめたいと願う。お釈迦様は目蓮を龍宮につかわし、閻浮檀金を持ち帰らせる。
- ⑤閻浮檀金(えんぶだごん)を炉上で溶かすと、新仏が出現し、新仏・本仏が並び座す。
- ⑥本仏が極楽浄土に帰るのを合掌して見送る。
- ⑦月蓋長者は大伽藍を建立し一光三尊仏を安置、仏教に帰依、人々も仏弟子となる。
- ⑧天竺で五百年にわたり済度した後、一光三尊仏が空中を百済に向けて飛行。
- ⑨如来は月蓋の生まれかわりである百済の聖明王に前世の因縁を説く。
- ⑩一千十二年後日本に趣くことを告げ、多くの人々が見送り、日本に向けて舟が出発。